

メディア利用が青少年の性行動に及ぼす影響 (1)

— ジャンル別のインターネット利用 —

○檀淵めぐみ¹・安藤玲子²・鈴木佳苗¹・桂瑠以³・熊崎あゆち³・坂元章³
 (1 筑波大学, 2 金城学院大学, 3 お茶の水女子大学)

キーワード: 性経験, インターネット利用, 因果関係

目的

青少年の性の問題について、しばしばメディアの悪影響論が展開されているが、青少年を対象とした研究は少ない。本研究の目的は、メディア利用と青少年の性行動の因果関係を検討することである。その基礎的課題として、本一連研究では、ジャンル別のインターネット利用と性的情報収集目的でのメディア利用について、それぞれのメディアを多少でも利用するか否かという「利用の有無」の効果について検討した。本稿(一連研究の(1))では、ジャンル別のネット利用の影響について報告する¹。

方法

調査時期 2009年12月と2010年6~7月の2回。

調査対象者 2回の調査に回答した全国の高校1~2年生892名(男子349名・女子543名)を分析対象とした。

調査内容

ジャンル別のネット利用の有無 ①コミュニティ・サイト、②動画サイト、③自作小説・マンガのサイト、④芸能人などの公式サイトやブログの4ジャンルに分け、1週間の使用時間を平均すると1日にどのくらいになるかについて、「使っていない(0)」~「3時間以上(6)」の7件法で尋ねた。「使っていない(0)」の場合を「利用なし:0」、「10分未満(1)」以上の場合を「利用あり:1」に2値変換し、ネット利用の有無の指標とした。

性行動の経験の有無 ①二人きりのデート、②キス、③ペッティング、④コンドームを使ったセックス、⑤コンドームを使わないセックス、⑥性感染症(STD)の検査の受診、の6項目について、経験の有無を尋ねた。④コンドーム使用と⑤不利用のセックス経験の和集合を求め、「セックス経験」全体の指標を合成した。

デモグラフィック変数 学校と性別を尋ねた。

手続き クラスごとに一斉実施し、その場で回収した。

結果

ジャンル別のネット利用の有無が性行動に及ぼす影響を検討するために、2時点目の性経験の有無(0/1)を従属変数、1時点目のネット利用の有無(0/1)を独立変数とするロジスティック回帰分析を、男女別に行った。本分析では、オッズ比が1より大きければ正の効果、1より小さければ

負の効果があることを意味する。なお、従属変数となる性経験の各々について、1時点目の性経験が「あり」であった者が、2時点目で経験「なし」となることは論理的に起こり得ないため、各分析の対象者は、1時点目の当該性経験が「なし」の者のみを抽出した。

分析の結果、有意となったオッズ比を表1に示す。男子では、小説・マンガのサイトと公式サイト・ブログの利用が、セックスとコンドーム使用の性経験に正の効果を示した。女子では、コミュニティ・サイトの利用が、デート、キスの経験への正の効果を示す一方、動画サイトはペッティング経験へ、公式サイト・ブログはコンドーム不使用の性経験へ、それぞれ負の効果を示した。

考察

本研究の結果、女子では、コミュニティ・サイトの利用が、デートやキスなど性行動の初期段階に影響し、男子では、小説・マンガと公式サイト・ブログの利用が性行動のより進んだ段階に影響する可能性が示唆された。また、女子では、動画サイトと公式サイト・ブログの利用が、より進んだ段階の性行動に抑制的な影響を持つことも示唆された。

今回の分析では、メディア利用の有無の効果について基礎的な検討を試みた。今後、利用時間や頻度による影響力の強弱について、詳細な分析を進める必要がある。

表1 インターネット利用量が性行動に及ぼす影響(オッズ比)

	デート	キス	ペッティング	セックス 経験	コンドーム 使用	コンドーム 不使用	STD 検査
男子							
小説・マンガ				3.6**	3.7**		
公式・ブログ				3.4**	3.4**		
女子							
コミュニティ	2.1*	4.7**					
動画サイト			.4*				
公式・ブログ						.2*	

注1: 有意な影響関係が示されたもののみ記載した。** $p < .01$, * $p < .05$

引用文献

檀淵めぐみ・安藤玲子(2011)平成22年度共同研究報告書 インターネット利用と性意識・行動の関係性に関する研究 三菱総合研究所

¹注:本研究は、三菱総合研究所、安心ネットづくり促進協議会と連携して行われた(檀淵・安藤, 2011)。調査実施にあたり、総務省の協力を得た。